



ハッピーテラス通信

令和6年1月号

ハッピーテラスキッズ柏ルーム
04-7193-8205

1 お知らせ

あけましておめでとうございます。
今年も宜しくお願いいたします。

2 職員からの推薦図書

題名 大ピンチずかん
著者名 鈴木のりたけ
参考価格 1650円 (Amazon)
推薦者 山下宏子 (中野ルーム)



大ピンチを知れば、いつ大ピンチになってもこわくない！
この図鑑は、子どもが遭遇しがちな「大ピンチ」をレベル順に紹介します。また、その大ピンチの対処法や、似ている大ピンチ、大ピンチからさらにおそいかかる大ピンチなど、あらゆる方向から大ピンチをときあかします。
誰しもが経験のあるような様々なピンチに思わず共感できてしまうユーモアにあふれた1冊です。

3 12月の追加ご利用可能日程

各教室において、追加でご利用される場合にご参考ください。

(記号：○・・・空きがございます △・・・若干名の空きがございます)

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
10:00	X	X	X				X	X						X	
11:15	X	X	X				X	X						X	
13:00	X	X	X		△		X	X						X	
14:45	X	X	X				X	X		△				X	
16:00	X	X	X				X	X						X	

日付	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
10:00						X							X			
11:15						X							X			
13:00				△		X							X			
14:45						X							X			
16:00						X							X			

4 療育コラム 「遊びと子どもの発達②」

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、今回も前回に引き続き、遊びと子どもの発達についての研修の内容をベースにしてお話をしていきたいと思えます。

前回は、遊びによって得られる学びと、遊びの定義についてお伝えし、最後に遊びを阻害する要因がある事と、それが何かを考えていただく、という所でお話を終えました。

そのため、今回は【遊び】を阻害する大きな要因を明かす所からお話を始めていきたいと思えます。

早速ですが、その要因とは、他でも無い、私達【大人からの制止】です。

これに関しても、前回も登場した【高い段差からの飛び降りる遊び】を例に挙げて考えてみると分かりやすいように思えます。

仮に、この遊びを自身のお子様が行っている場面に遭遇したら皆様は何と声を掛けるでしょうか？

恐らく大多数の方々が、「何やってるの！危ないから止めなさい！！」と、というような制止を含む声掛けをするように思えます。

それは【安全】という観点からは、至極当前の声掛けなのですが【遊び】という別の観点から考えると、遊びを阻害された結果、お子様の発達の機会が失われた、とも取れるのです。

また、これとは別に公園などの公共の場で他者と遊びを共にする際、他者の迷惑にならないように自身のお子様を制止したり、他者に譲るように、事が起こる前に対応をすることも同様に、実際の場面を通して、対人関係を学ぶ機会を奪っている、と講師の先生は仰っていました。

更に、このように制止を受け続ける事で、「どうせ上手くできないし迷惑になるから、やりたいけど、やらない」という思考が形成されていく、とも仰られていました。

このお話を聞いた時、特に後者の他者の迷惑にならないように、という制止に関しては、私自身、よく行っているものですから、身につまされる思いでした。

それと同時に、迷惑を掛けるのが分かりきっているのに制止しないのは親としてどうなのか、と納得できない想いもありました。

因みに、後に続けて講師の先生も仰られていましたが、制止が必要となる場面は確かにあるそうです。

しかしながら、それは、明らかな大怪我に繋がるような危険な行為など緊急やむを得ない場面に限られる、との事でした。

とかく、先の例の後者のような【他者の迷惑になる】という視点に関しては、大人の視点からの物の捉え方であり、それを大人の我々が理解できているのは、何かしらでそういった行為と、その結末に触れる機会があり、その機会を経て学習した結果であると言えます。

だとすれば、お子様は他者に迷惑をかける、または他者から迷惑を被る事を通して、学ぶ機会に直面していると考え事ができます。

可能であれば自身のお子様も、他者を傷つけたり、自分自身が傷ついたりしてほしくない、というお気持ちは、私も1人の子どもの親として、よく分かるのですが、前もって制止するのではなく、事の顛末を見守った上で、介入するか否かを決められると、学びの機会を損なう事なく、親としてのトラブルへの対応のフォローもできるように思いました。

さて、今回のお話、いかがでしたでしょうか。

正直に申し上げて、私自身、研修会を受けた今でも【他者の迷惑にならないよう制止することは必要である】という思考が否めないで、上手にお伝えてきたか不安なところがございます...

しかしながら、日々子ども達とふれあう仕事をしていると、大人の視点からすると「その条件とか伝え方で大丈夫なの!？」と感じる事であっても、子ども間では合意を得た上で関係性が成立するという、子ども間の問題解決能力の高さでもいうべきものに直面する機会があります。

そして、そういった状況を目の当たりにする度に、我々大人は、子ども達が持つ目の前の問題への対応力をもう少し信頼し、尊重すべきであるように思うのです。

それでは、また次回のコラムでお会いしましょう。